

本気野菜 トマトの育て方

①土づくり: 日当たりが良く、できるだけナス科を連作していない場所を選びましょう。

↓【植えつけ2～3週間前】堆肥2kg/m²、苦土石灰100g/m²を混ぜ、よく耕して土づくりをしておきます。



【植えつけ1週間前】→

配合肥料[8 - 8 - 8]など100g/m²を混ぜ込み、幅約60cm、高さ20cmほどの畝を作り、マルチフィルムを張って下さい。マルチフィルムを張ることで、雑草や泥ハネを防ぎ、病気にかかりにくくなります。



②植え付け: ※欧州グルメシリーズは畑での栽培をお勧めします。

↓【畑の場合】日当たりがよく、できるだけナス科を連作していない場所を選んで植えつけます。植えつけ2～3週間前に、堆肥2kg/m²、苦土石灰100g/m²を混ぜ、よく耕して土作りをします。有機石灰(牡蠣殻など)を使うと混ぜ込んですぐに苗を植えつけることができます。



【コンテナ・プランターの場合】→

土の容量が15L以上の容器(10～15号程度の深鉢)に1株植えとします。できれば新しい野菜用土をご用意ください。元肥は控えめにしておきます。日当たりの良い場所に置きましょう。

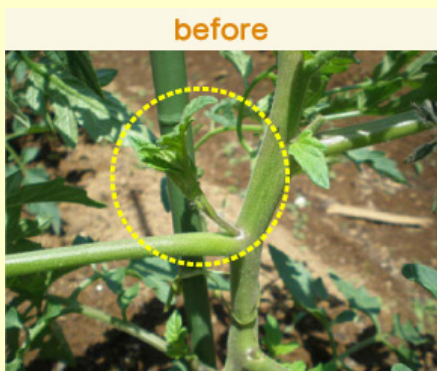


③水やり: トマトは比較的乾燥に強いので水の与えすぎは禁物。特にコンテナ栽培の場合での水のやりすぎにご注意ください。「葉が萎れてきたらしっかり水やり」が目安です。収穫が始まったらやや乾燥気味に管理したほうが美味しいトマトが収穫できます。ただし、大きく生長してきた夏場では乾燥しやすいため、朝か夕方の涼しいうちにしっかり与水えましょう。

④支柱: 植え付け直後は細めの仮支柱を立て、草丈が30～40cmになったら長さ120～200cmほど(太さ2cm以上)の太くて丈夫な支柱を立てます。

⑤わき芽かき: 花が咲き始める頃から主枝と葉の間のわき芽を順次摘み取り、すべて5cmくらいになるまでに掻きとって主枝1本だけを育てる1本仕立てをお勧めします。トマトのわき芽の生長は早いので、毎週忘れずにチェックしましょう。摘果は必要ありません。

これがわき芽→



あまり大きならないうちに手で摘み取ります→



⑥摘果(大玉タイプのみ):

大玉タイプの場合、ひとつひとつの実を大きくするために、1花房あたり4〜5果程度に残して摘果します。開花後、実が膨らみ始めたころ、花房先端の小さな実を摘み取りましょう。ミニタイプ、ミディタイプは摘果の必要はありません。



順調に肥大しはじめた実を残します。

⑤追肥: 生長期間が長いので適宜追肥をします。

【1回目の追肥】果実がふくらみはじめたら。

【その後の追肥】3段目、5段目の実がふくらむ頃を目安に。プランターの場合は1000倍に薄めた液肥を毎日与えてもかまいません。ただし、やりすぎは厳禁です。葉が大きくなりすぎる、軸が太すぎる場合などは回数や量を減らしましょう。

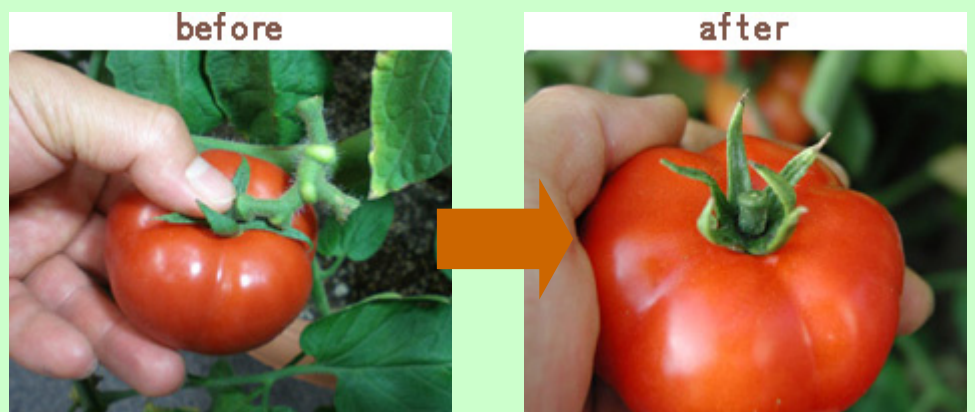


【追肥】畑の場合: 畝の両側に1株あたり配合肥料50g程度すき込み→

⑥収穫: 開花後45〜50日くらいで実が熟してきます。真っ赤に熟したもののから順次収穫を!



↑ズッカはやや青みの残る完熟手前でも、酸味が少なくおいしいです。



手でもぎ取る場合、果梗の離層部に指を当てると、簡単にもぎ取れます(取りにくい場合は、ハサミを使用してください)。果梗は他の実を傷つけないようにできるだけ短く切りましょう。

⑦摘芯:

最後まで安定して収穫できるように、主枝が支柱の高さに達した頃(畑なら7段、プランターなら5段くらい)を目安に、最上部の花房の上2枚の葉を残して主枝摘んでください。



●その他ポイント:

・梅雨に入る前には、株元に近い古い葉を取り除き、風通しを良くする。雨による泥のはねかえりをなくしたり、風通しを良くすることで病気にかかりにくくなります。

・肥料過多・カルシウム不足・日照不足などで「尻腐れ」が起きやすくなります。「尻腐れ」は病気ではありませんが、一度発生するとその果実は治らないので、尻腐れになった果実は上の赤い部分も食べずに捨てましょう。